2025年度秋学期

画像情報処理

第2部・画像情報圧縮 /

第9回

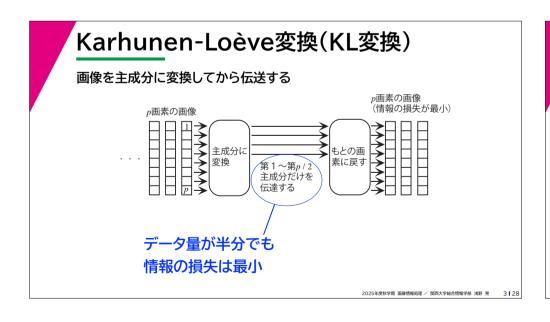
離散フーリエ変換と

離散コサイン変換



関西大学総合情報学部 浅野 晃

JPEG方式による画像圧縮 画像を波の重ね合わせで表わし、一部を省略して、データ量を減らす ひとつのセルを、これらの波の重ね合わせで表す 細かい部分は、どの画像でも大してかわらないから、省略しても気づかない 省略すると、データ量が減る (図はA. K. Jain, Fundamentals of Digital Image Processingより転載) 2025年度が表現 高度大学総合情報学等 次月 2 2128



KL変換の大問題

主成分を求めるには,分散共分散行列が必要

分散共分散行列を求めるには、 「いまから取り扱うすべての画像」が 事前にわかっていないといけない

そんなことは不可能®

そこで

ベクトルの直交変換を、行列の直交変換におきかえることで、 どういう変換かが見えるようにする

原画像Xは、 m^2 個の基底画像にそれぞれ 変換後画像Zの各要素をかけて足し合わせたものになっている

どういう直交変換(ユニタリー変換)を用いるかを、基底画像を目でみて決める

$$X = z_{11} \boldsymbol{r}_1 \boldsymbol{r}_1' + z_{12} \boldsymbol{r}_1 \boldsymbol{r}_2' + \dots + z_{mm} \boldsymbol{r}_m \boldsymbol{r}_m'$$

基底画像

こんな「基底画像セット」なら、 最後の方の基底画像は ごまかせそうだ

そこで

ベクトルの直交変換を、行列の直交変換におきかえることで、 どういう変換かが見えるようにする

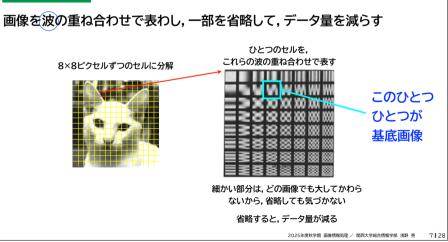
原画像Xは、 m^2 個の基底画像にそれぞれ 変換後画像Zの各要素をかけて足し合わせたものになっている

どういう直交変換(ユニタリー変換)を用いるかを、基底画像を目でみて決める

$$X=z_{11}m{r}_1m{r}_1'+z_{12}m{r}_1m{r}_2'+\cdots+z_{mm}m{r}_mm{r}_m'$$
 基底画像として 波を用いる $m{z}$ 基底画像 フーリエ変換

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 6 28

JPEG方式による画像圧縮



2次元離散フーリエ変換を行列で 99

2次元フーリエ変換

$$F(\nu_x, \nu_y) = \iint_{-\infty}^{\infty} f(x, y) \exp\{-i2\pi(\nu_x x + \nu_y y)\} dx dy$$

指数関数の性質から

$$F(\nu_x, \nu_y) = \iint_{-\infty}^{\infty} f(x, y) \exp(-i2\pi\nu_x x) \exp(-i2\pi\nu_y y) dx dy$$

$$= \int_{-\infty}^{\infty} \left[\int_{-\infty}^{\infty} f(x, y) \exp(-i2\pi\nu_x x) dx \right] \exp(-i2\pi\nu_y y) dy$$

$$x 方向のフーリエ変換 v方向のフーリエ変換$$

2次元フーリエ変換は分離可能

2026年度社学期 不确模知利用 / 期末十学組合模和学部 津紅 目

2次元離散フーリエ変換

1次元離散フーリエ変換

$$U(k) = \sum_{n=0}^{N-1} u(n) \exp(-i2\pi \frac{k}{N}n)$$
 $(k = 0, 1, ..., N-1)$

2次元離散フーリエ変換(分離可能な形式)

$$U(k,l) = \sum_{n=0}^{N-1} \left[\sum_{m=0}^{M-1} u(m,n) \exp(-i2\pi \frac{k}{M}m) \right] \exp(-i2\pi \frac{l}{N}n)$$

縦横の大きさが同じなら

$$U(k,l) = \sum_{n=0}^{N-1} \left[\sum_{m=0}^{N-1} u(m,n) \exp(-i2\pi \frac{k}{N}m) \right] \exp(-i2\pi \frac{l}{N}n)$$

2025年度社会期 不像樣物原理 / 期面十分综合樣物会報 法庭 期 10 11

離散フーリエ変換を行列で表す

行列の直交変換の形で表す Z=RXR'

$$U(\underline{k}, \underline{l}) = \sum_{\underline{n=0}}^{N-1} \left[\sum_{\underline{m=0}}^{N-1} u(\underline{m}, \underline{n}) \exp(-i2\pi \frac{\overline{k}}{N} \underline{m}) \right] \exp(-i2\pi \frac{\underline{l}}{N} \underline{n})$$

$$\lim_{l \to \infty} (Z = U(k, l)) = \lim_{l \to \infty} (X = u(m, n)) \cdot \lim_{l \to \infty} (R')$$

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 11 ▮ 2

離散フーリエ変換を行列で表す

前ページのように行列を配置すると

$$R' = \begin{pmatrix} e^{-i2\pi \frac{0}{N}0} & \cdots & e^{-i2\pi \frac{k}{N}0} & \cdots & e^{-i2\pi \frac{N-1}{N}0} \\ \vdots & \ddots & & & & \\ e^{-i2\pi \frac{0}{N}m} & e^{-i2\pi \frac{k}{N}m} & & & \\ \vdots & & \ddots & & & \\ e^{-i2\pi \frac{N}{N}(N-1)} & & & e^{-i2\pi \frac{N-1}{N}(N-1)} \end{pmatrix}$$

$$R = \begin{pmatrix} e^{-i2\pi \frac{0}{N}0} & \cdots & e^{-i2\pi \frac{0}{N}n} & \cdots & e^{-i2\pi \frac{0}{N}(N-1)} \\ \vdots & \ddots & & & & \\ e^{-i2\pi \frac{1}{N}0} & e^{-i2\pi \frac{1}{N}n} & & & \\ \vdots & & \ddots & & \\ e^{-i2\pi \frac{N-1}{N}0} & & & e^{-i2\pi \frac{N-1}{N}(N-1)} \end{pmatrix}$$

2025年度秋学期 画像情報创理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 12 2

離散フーリエ変換を行列で表す

指数関数がややこしいので

$$W_N = \exp(-\frac{i2\pi}{N})$$

とおくと,

$$R = \left(\begin{array}{cccc} W_N^{0.0} & \cdots & W_N^{0.n} & \cdots & W_N^{0\cdot(N-1)} \\ \vdots & \ddots & & & & \\ W_N^{l.0} & & W_N^{ln} & & & \\ \vdots & & & \ddots & & \\ W_N^{(N-1)\cdot0} & & & & W_N^{(N-1)(N-1)} \end{array} \right)$$

$$Z = RXR$$

0.25年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

ところで,本当にユニタリー?

「ある列」と「ある列の複素共役」の内積

異なる列なら0.同じ列なら1 ならユニタリー

$$\begin{split} \sum_{l=0}^{N-1} W_N^{ln} \cdot (W_N^{ln'})^* &= \sum_{l=0}^{N-1} \exp(-\frac{i2\pi ln'}{N}) \exp(\frac{i2\pi ln'}{N}) \\ &= \sum_{l=0}^{N-1} \exp(-\frac{i\{(n-n')2\pi\}l}{N}) \\ &= \sum_{l=0}^{N-1} W_N^{(n-n')l} \end{split}$$

異なる列(等比数列の和)

同じ列

$$\begin{split} \sum_{l=0}^{N-1} W_N^{(n-n')l} &= \frac{1 - W_N^{(n-n')N}}{1 - W_N^{(n-n')}} & \sum_{l=0}^{N-1} W_N^{(n-n')l} = \sum_{l=0}^{N-1} 1 = \widehat{\mathbb{N}} \quad \mathbf{NG} \\ &= \frac{1 - \left(W_N^N\right)^{(n-n')}}{1 - W_N^{(n-n')}} &= \frac{1 - 1^{(n-n')}}{1 - W^{(n-n')}} \neq 0 \quad \mathbf{OK} \end{split}$$

0.25年度秋学期 不像樣報前頭 / 期末十学級人樣報学館 进転 即 1.4 1.1

ユニタリー離散フーリエ変換

いままでに説明した R だと $RR'^* = NI$

$$W_N = rac{1}{\sqrt{N}} \exp(-rac{i2\pi}{N})$$
 とおけば

$$RR'^*=I$$
 となって、ユニタリーになる $Z=RXR$ $X=R^*ZR^*$

離散フーリエ変換はユニタリー変換の一種である

→ 離散フーリエ変換も「座標の回転」の一種である

「画素値の並び」から、「『波』を表す基底画像の組み合わせ」へ

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 15 ▮ 28

離散コサイン変換等

1612

離散コサイン変換

フーリエ変換では、複素数を扱う必要がある

そこで、実数だけで計算できる変換 JPEG方式もこれを用いている

$$R = \begin{pmatrix} l \downarrow & & & & \\ & \ddots & & & \\ & & r(n,l) & & \\ & & \ddots & \end{pmatrix},$$

$$r(n,l) = \begin{cases} \frac{1}{\sqrt{N}} & & l = 0\\ \frac{2}{\sqrt{N}} \cos \frac{(2n+1)l\pi}{2N} & l \neq 0 \end{cases}$$

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 17 2

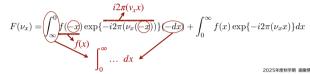
離散コサイン変換とフーリエ変換

離散コサイン変換は、関数を折り返して偶関数にしたもののフーリエ変換に相当

偶関数(f(x) = f(-x))のフーリエ変換は、実数の計算になる

$$\begin{split} F(\nu_x) &= \int_{-\infty}^{\infty} f(x) \exp\{-i2\pi(\nu_x x)\} dx \\ &= \int_{-\infty}^{0} f(x) \exp\{-i2\pi(\nu_x x)\} dx + \int_{0}^{\infty} f(x) \exp\{-i2\pi(\nu_x x)\} dx \end{split}$$

第1項の x を -x に変数変換



2025年度報学期 不停煙和前頭 / 即而十学級合煙和学報 津蘇 目 10

偶関数のフーリエ変換

つまり

$$F(\nu_x) = \int_0^\infty f(x) \exp\{i2\pi(\nu_x x)\} dx + \int_0^\infty f(x) \exp\{-i2\pi(\nu_x x)\} dx$$

$$F(\nu_x) = \int_0^\infty f(x) \left[\exp\{i2\pi(\nu_x x)\} + \exp\{-i2\pi(\nu_x x)\}\right] dx$$

指数関数と三角関数の関係から

$$F(\nu_x) = 2 \int_0^\infty f(x) \frac{1}{\cos 2\pi (\nu_x x)} dx$$

実数の計算になる

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 見 19 ▮ 28

離散コサイン変換

離散コサイン変換は、関数を折り返して偶関数にしたもののフーリエ変換に相当

1次元の場合

折り返す

$$u(N-1), u(N-2), ..., u(1), u(0) \quad u(0), u(1), ..., u(N-2), u(N-1)$$

2N 要素の数列

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 20 2

離散コサイン変換

$$N$$
 要素の離散コサイン変換は $U(k) = \left\{ egin{array}{ll} rac{1}{\sqrt{N}} \sum_{n=0}^{N-1} u(n) & k=0 \\ rac{2}{\sqrt{N}} u(n) \cos rac{(2n+1)k\pi}{2N} & k
eq 0 \end{array}
ight.$

 $k \neq 0$ の場合を考えると

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 21

離散コサイン変換

$$U(k) = \frac{1}{\sqrt{N}} \sum_{n=0}^{N-1} u(n) \exp \frac{-i((-n)-1/2)k\pi}{2N} + \frac{1}{\sqrt{N}} \sum_{n=0}^{N-1} u(n) \exp \frac{-i(n+1/2)k\pi}{2N}$$

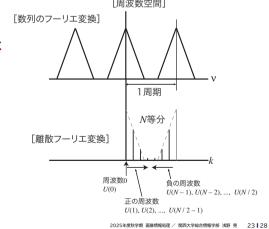
これは、折り返した数列に対して

2N項のフーリエ変換をしていることになるので, k = 0 が周波数 $\mathbf{0}$, k = 1,...,N-1 の順に周波数が高くなる

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 22 2

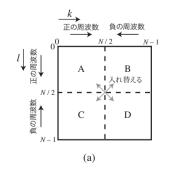
離散フーリエ変換と正負の周波数

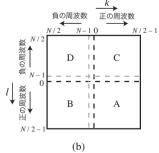
1次元の離散フーリエ変換ではこういう折り返し



離散フーリエ変換と正負の周波数

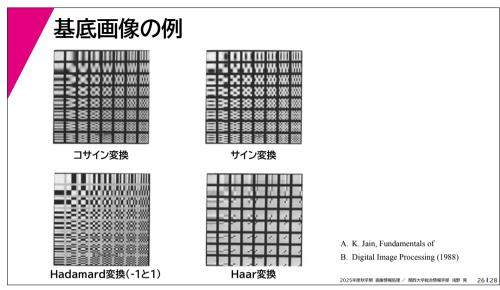
2次元の離散フーリエ変換でもこういう折り返しがあったが、 離散コサイン変換では折り返しはない





2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 24 |









リンギング(モスキートノイズ)

※粗い波だけを重ねて エッジ(明暗の境界線)を 表すと生じる

2025年度秋学期 画像情報処理 / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 28 ▮ 28